

# きどり ストーリー

第29回

沿線でかがやきつづける方に  
インタビュー!

えがわ  
糸川史子さん  
(ピアニスト・ちちぶエフエム  
パーソナリティ)

ラジオを通してコミュニティ  
を繋げていきたい

ピアニストであり、  
ちちぶエフエムのパーソナリティでもある  
糸川史子さんに  
インタビューしてきました!

## レトロな楽器を修復して 蘇らせるのが今の楽しみ

周りをバツと明るく照らす笑顔と、軽妙な語り口が印象的な糸川さん。ピアニストとして演奏会や生徒指導などを行う一方で、昨年10月に開局したばかりのちちぶエフエム(79.0MHz)のパーソナリティとしても活躍している。

「秩父地域を中心としたコミュニティラジオです。朝の『ちちぶキラキララジオ』という番組をメインに担当することが多いのですが、私自身の情報というよりは、私の視点から見た秩父の日常や面白い人、それを私がどう感じたのか、などを音楽とともに紹介して、リスナーの方に楽しんでいただいています」

開局してまだ数カ月だが、反響はじわじわと広がっている。

「お手紙やFAXをいただくことも増えましたし、街を歩いていると『あー糸川さんだ!』と声をかけてもらうことも。番組を機にコミュニティが繋がっていく感じがとても楽しいです」

秩父の魅力を数多く伝えてきた糸川さんだが、今号で紹介している「レトロな街並み」もお気に入りの一つだという。

「実は古着や建物、道具など古いものは大好きなんです。今一番ハマっているのは、古い鍵盤楽器を自分で修復して、昔の音色を蘇らせること。以前、地元の方に『蔵を取り壊すから』と保管していた足踏みオルガンを譲っていただいたのですが、修復できる人も限られるため、自分で講習会に行って修復方法を学びました。今は、バツが活躍していた時代に使用していたクラビコードという鍵盤楽器を組み立て、その音色を楽しんでいます」

聞かせてもらうと、音が折り重なるようにして優しく響いてくる。一般的なピアノとは違った味わいだ。

## 古いものに対する価値感をもう一度問いかけた

「鍵盤が付いているものなら何でも大好き」と語る糸川さんは、こうした楽器を使ったライブなども積極的にやっている。毎月第一日曜日に、秩父ミューズパーク内にあるカフェ「メーブルベース」で「ペンギンとシロクマ」というユニットでライブを行っているほか、地域イベントなどで披露することもあるそう。4月11日には「プチックゆふ」という鍵盤ハーモニカユニットでCDも発売する予定だ。

「テーマは『箱庭』。ガラタタでできた口ポットやゴミで作ったウサギなど、捨てられていくものへのオマージュを曲にしています。『断捨離』という言葉がブームになるように、捨てることが肯定的に受け止められる時代だからこそ、古いものに対する価値感をもう一度、捉え直す時期にきているように思います」



糸川さんが普段身につけているアクセサリ。と思いきやどれも音の出る楽器!

CD手売り  
してます!

「423」  
1,500円(税込)

## ON AIR

秩父鉄道オリジナル番組  
「出発進行!ちちぶライフ」  
第2・4金曜  
17:00~17:55

## ちちぶエフエム

(79.0MHz)

スマホで

どこでも聴けます!

公式アプリ



無料

